

# シンポジウム 災害に備える：気象災害から健康影響まで

主催者から 皆様は、災害というと、地震や土砂崩れを思い起こされるでしょうか。それとも台風や大雪といった気象災害でしょうか。あの福島事故でしょうか。ゲリラ豪雨や豪雪といった顕著な気象災害でなくとも、大気汚染物質や人間の呼吸器系にも影響するエアロゾルは、大気の拡散で運ばれてきます。福島第一原子力発電所からの放射性物質が沈着し浪江や福島県中通りに沈着したのは、2011年3月15日-16日、降雪・降雨や霧があったことと密接に結びついています。このように、気象のしくみを知ることは、災害時に適切な情報を取捨選択し、自分や家族を守ることに結びつきます。

今回は、福島の災害時に、大学の管理職かつ気象の研究者として陣頭指揮をとられたご経験をお持ちの、渡邊教授、健康被害に関係するPM2.5や福島の放射性物質の拡散シミュレーション研究での中堅若手リーダ的研究者である梶野氏に、災害時や健康被害を含めた気象状況についてお話をお願いしています。また弘前大学の被ばく医療総合研究所および理工学研究科には、福島震災時に、内部被ばくに関係して食品の安全基準の制定にかかわったり、福島県での放射性物質の移行調査やレーダーによる降水分布の把握にかかわった研究者があり、それぞれの視点から、あの災害時の経験を踏まえ、この地でどのように災害に備えようとしているのか、お話ししたいと思います。

## 講演者プロフィール

(敬称略、講演順)

わたなべあきら

**渡邊 明 (福島大学 名誉教授・特任教授)**

東京都立大学大学院理学研究科修了、理学博士。気象庁に勤務（運輸技官）した後、福島大学に出向、同大助手、講師、助教授、教授、理事・副学長、2014年より現職。局地循環、気象災害などを中心に研究してきたが2011年の原発震災後、環境放射能の計測をしている。この間、原子力安全保安院およびその後の原子力規制庁の特定原子力施設監視・評価検討会委員、福島県原子力発電所の廃炉に関する安全確保県民会議、議長などを務めた。

かじのみずお

**梶野 瑞王 (気象研究所 環境・応用気象研究部 主任研究官)**

専門は気象学・大気化学。京都大学理学部卒、同大学院理学研究科修了、理学博士。京大防災研、東大先端研研究員を経て、2010年11月に気象研に就職。大気エアロゾルおよびそれが運ぶ様々な有害物質の数値実験を行う傍ら、筑波大連携大学院制度で後進の育成を手がけている（学生募集中）。2012年日本エアロゾル学会論文賞、2015年大気環境学会最優秀論文賞受賞。

いわおかかずき

**岩岡 和輝 (弘前大学 被ばく医療総合研究所 助教)**

弘前大学被ばく医療総合研究所に2014年に着任。食品中の放射性物質の基準値に関する規制科学研究を行うとともに、物理学的線量評価の迅速化や高精度化の研究を行っている。また最近は、平常時における自然放射線の物理計測、被ばく線量評価、規制手法に関する研究を行っている。

やたがいあきよ

**谷田貝 亜紀代 (弘前大学大学院理工学研究科 気象学研究室 准教授)**

専門は気候学・気象学。筑波大学地球科学研究科修了、理学博士。宇宙開発事業団地球観測データ解析研究センター招聘研究員、総合地球環境学研究所助教、京都大学特任准教授などを経て、2016年4月より現職。アジアの水資源への温暖化影響評価のための日降水量グリッドデータ（APHRODITE）作成により2015年度日本水文・水資源学会国際賞受賞。